

## [010] 総合文化学論輯表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2552920>

---

出版情報：総合文化学論輯. 10, 2019-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies  
バージョン：  
権利関係：

## 総合文化学会活動記録 2018.10.1—2019.5.1

### 第16回総合文化学会

日時：2018年10月7日（日） 午前10時～午前11時45分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス視聴覚室

#### 1. ご挨拶・ご連絡

#### 2. 口頭発表（申し込み順）

①

**発表者：**入江良英（精華女子短期大学教授・保育学、教育社会学、幼児教育方法論、社会病理学、人間科学・研究テーマ：「個性化」と「社会化」が融合した「包摂社会」をめざすオールタナティブ保育・教育の研究）

**発表タイトル：**

「個性化」と「社会化」が融合（一致）した「包摂社会」をめざす  
オールタナティブ保育・教育の研究

**発表要旨：**

教育の目標には、「個性化」と「社会化」という、一見相反する方向性が含まれている。まさに「児童中心主義」と「集団主義教育」がそれに当たるのだが、しかしそれは現実的には融合（一致）せざるをえないとも考える。K.マンハイムの「広義の教育概念」、H.ガードナーの「MI:多重知能」、いくつかのオールタナティブ保育・教育思想等、を考察することにより、「個性化」と「社会化」の一致が、実は「人間科学」の根本問題であることを示してみたい。

以上

②

**発表者：**吉川知己（精華女子短期大学講師、児童家庭福祉、教育福祉・研究テーマ：児童養護施設の子どもたちの大学進学の問題・男性の育児・働き方改革）

**発表タイトル：**

男性の育児参加と隠れ育休 ～家事参加も視野に入れて～

**発表要旨：**

父親の育児参加が喧伝されるが、家事を含む育児参加の指標となる男性の育児休業（以下、育休）の取得率は低い。さらに、短期間であるから有給休暇で対応しているのが現状である。

このことを「隠れ育休」と指摘している団体があるが、“育休”の方が良い。この取得のために“苦勞”を克服しなければならないからだ。つまり、育休後も子育てに積極的に関与することが期待できる。このなかで家事能力も養われる可能性もあるだろう。

以上

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第9号刊行 2018.11.1

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第10号刊行 2019.5.1